

幼稚園・保育園から小学校に入学する際に 子どもが感じる不安と その子どもの置かれた環境との関連

鈴木邦明 (横浜市立青木小学校 教諭)

はじめに

小学校への入学は、子どもにとって大きな変化である。少子化の時代、幼稚園や保育園はそれぞれに特色を出すよう取り組んでいる。また、低年齢での早期教育が盛んになり、2、3歳で英語や水泳、音楽などの習い事をしている姿も珍しいことではなくなっている。一方、経済的およびその他の理由から、様々な体験をすることなしに育ってきている子どももいる。このように小学校に入学するまでにそれぞれの子どもの経験してきたことには大きな差がある。

細川ら(1999)によると、次年度小学校入学予定児に入学についての不安要素を聞いたところ、「勉強」、「トイレ」、「着脱」での不安傾向が強く、「遊び」、「友だち」については不安傾向が弱かった。また、伊藤ら(2001)による入学後の調査では、「勉強」については不安傾向が低下していた。さらに鈴木(2007)によると、次年度小学校入学予定児に入学についての不安要素を聞いたところ、「通学」、「給食」、「友だち」について不安傾向が強く、「掃除」、「運動」などについて不安傾向が弱かった。

このように、小学校入学予定児に入学についての不安要素を調べた研究は行われている。しかし、小学校入学予定児が感じている不安について、幼稚園と保育

園に分けて調べている研究は行われていない。また、幼稚園・保育園の環境の違いが小学校への入学に与える影響について調べた研究は行われていない。

今回、幼稚園・保育園から小学校に入学する際に子どもが感じる不安について調査した。そして、幼稚園・保育園の違いが子どもに与える影響や小学校や幼稚園・保育園のあり方について考察する。

方法

- (1) 対象：神奈川県横浜市にある公立小学校1年生 148名(幼稚園卒園者101人、保育園卒園者47人)
- (2) 時期：2006年5月(56名)、2007年6月(92名)に調査を実施
- (3) 調査内容：学級担任が直接1年生に質問紙法で、次のことについて質問した。

調査①学校生活で不安に思っていたこと

入学前については、入学後に入学前に思っていたことについて質問した。項目は「通学、給食、友だち、国語の勉強、算数の勉強、その他の勉強、休み時間、先生、運動、掃除」とし、あてはまる項目について、いくつでも○をするよう求めた。

調査②幼稚園・保育園におけるクラス替えの有無

項目は「毎年、無し」と、あてはまる項目につ

■表1：学校生活で不安に思っていたこと(合計148人)

	幼稚園(101人)	保育園(47人)
給食	59%(60人)	53%(25人)
先生	34%(34人)	32%(15人)
友だち	53%(54人)	74%(35人)
国語の勉強	29%(29人)	28%(13人)
算数の勉強	43%(43人)	32%(15人)
その他の勉強	32%(32人)	34%(16人)
休み時間	26%(26人)	34%(16人)
掃除	53%(54人)	51%(24人)
運動	19%(19人)	38%(18人)
通学	54%(55人)	55%(26人)

いて、○をするよう求めた。

調査③幼稚園・保育園における1学年のクラスの数

項目は「1クラス、2クラス、3クラス以上」とし、あてはまる項目について、○をするよう求めた。

* 調査①については、148名、調査②③については28名を対象とした。

(4) 調査校の状況

学校のある場所は神奈川県横浜市神奈川区で、JR横浜駅からも徒歩圏であり、都市部である。学区に畑や田んぼは全くなく、鉄道ではJR東海道線・京浜東北線・横須賀線、京浜急行線、東急東横線、横浜市営地下鉄、道路では国道1号などが通る交通の要衝である。

学区の大部分が住宅地域で、中規模のマンションが多数あるエリアと一戸建て中心のエリアとがある。駅のそばは商業地域で、小規模の飲食店や商店が多く、工場が若干見られるという地域である。江戸時代の東海道の神奈川宿の一部が学区に含まれている。また、幕末の横浜開港にも関連の深い地域である。そのため、由緒のある神社の史跡などが多数ある。

結果

小学校入学予定児が、入学するにあたって感じていた学校に関する不安要素を、幼稚園と保育園に分けて表1に示した。

幼稚園では、給食(59%)、通学(54%)、友だち(53%)、掃除(53%)などに不安が多く見られ、運動(19%)、休み時間(26%)、国語の勉強(29%)、その他の勉強(32%)についての不安は少ない。また、保育園では、友だち(74%)、通学(55%)、給食(53%)、掃除(51%)

などに不安が多く見られ、国語の勉強(28%)、先生(32%)、算数の勉強(32%)については不安が少ない。

幼稚園・保育園での差が大きなものとしては、友だち(差20%)、運動(差19%)があり、どちらも保育園の方が不安が大きくなっている。

幼稚園・保育園のクラス替えの有無について、表2に示した。幼稚園では毎年が93%、無しが7%・保育園では毎年が0%、無しが100%であった。

幼稚園・保育園の1学年のクラスの数について、表3に示した。幼稚園では1クラスが0%、2クラスが29%、3クラス以上が71%。保育園では、1クラスが100%、2クラスが0%、3クラス以上が0%となっている。

考察

(1) 幼稚園・保育園での相違点について

①運動について

幼稚園・保育園の園庭の設置基準を表4に示した。園児を100人として計算すると、幼稚園(3クラス)は400平方メートル、保育園は330平方メートルとなる。同じ人数での比較だと、幼稚園の方が園庭が広い。また、幼稚園と保育園を比べると保育園は小規模で運営されているところも多く、園庭の規模は小さいものも見られる。

保育園は設置基準などから、園庭がない場合もある。これは、設置基準に保育園の近辺に公園などがある場合、それを園庭の代わりとすることができるからである。また、保育園には設置基準に満たない認可外保育施設も数多くある。現在、都市部においては、待機児童を減らしていくという施策から多くの保育施

■表2：クラス替えの有無(合計28名)

	幼稚園(14人)	保育園(14人)
毎年	93%(13人)	0%(0人)
無し	7%(1人)	100%(14人)

■表3：クラスの数(合計28名)

	幼稚園(14人)	保育園(14人)
1クラス	0%(0人)	100%(14人)
2クラス	29%(4人)	0%(0人)
3クラス以上	71%(10人)	0%(0人)

設が造られている。それらの施設のなかには設置基準を満たしていないものもあり、ビルやマンションの一室などを使用して運営されているケースも見られる。そういった施設では、子どもが十分に体を動かすことができるスペースが無いことが多い。保育園のそばに公園などがあれば、園庭の代わりとすることができるが、様々な問題もある。保育園から公園までの距離が離れていたり、公園内や移動中の安全面の問題などもある。このような問題から、子どもが十分に体を動かして遊ぶことができていない保育園もあることが考えられる。

設置基準の違いによる園庭の大きさや有無などの状況の違いから、保育園の子どもの方が運動経験の少ない子どもがいることが予想される。その結果、保育園に通っていた子どもが小学校に入学するにあたって運動への不安が高かったと考えられる。

また、園庭以外では、幼稚園・保育園に通っている子どもの家庭環境の違いの影響も考えられる。保育園に子どもを通わせている家庭は両親が共に働いている家庭やその他の事情で両親が日中に子どもの世話をする時間的なゆとりのない家庭が多い。両親が働いていることや忙しいことなどによって、乳幼児期の運動経験が少ないということも考えられる。乳幼児期に親のうち片方が家庭にいる場合、公園などへ連れて行く回数も多くすることができる。また、子どもの運動能力の発達に大きな影響を与える親子での体を使った遊びなどに多くの時間を使うことができる。そういった様々な運動に関わる経験の違いが、幼稚園・保育園による不安の違いに表れてきたとも考えられる。

②友だちについて

表1にあるように、保育園に通っていた子どもの方が幼稚園に通っていた子どもよりも友だちに関して不安を感じている。これは、小学校に入学するまでの数年間の過ごし方によるものと考えられる。

表2にあるように、クラス替えに関して、幼稚園では、ほとんどの園で毎年クラス替えを行っている。幼稚園の規模や方針にもよるが、年少、年中、年長と4月に学年が変わるたびにクラス替えを行うところが多い。そのことにより、学級集団を構成するメンバーが

1年に一度大きく変わる。新しい友だちとの出会いがあり、そして親しくなっていく経験をしていく。幼稚園の場合、年少から幼稚園に通っている子どもでは2回、年中から通っている子どもでも1回のクラス替えを経験することになる。

一方、保育園は、幼稚園に比べ、全体的に園の規模が小さい。また、同一年齢の子どもの数も多くないことなどから、同一年齢の子どもで一つのクラスを作ることが多い。途中で、ある程度の転出入はあるものの、その集団は小学校入学前まで維持されることが多い。長い子どもでは0歳から6歳までの期間をほぼ同じメンバーで過ごすことになる。その結果、全く新しい集団に属すること、新しい友だちと出会うこと、そして新しい友だちと親しくなっていくことなどの経験が幼稚園に通っていた子どもよりも少なくなる。そうしたことが、保育園に通っていた子どもの多くが友だちに関して不安を持っている原因の一つと考えられる。

また、保育園に子どもを通わせている家庭は共働き家庭であることが多い。両親が働いていることで、子どもは地域との関わりが希薄になってしまう可能性がある。その結果、子どもは地域の同年代の子どもとの交流も限られてしまう。同年代との関わりが少なさが友だちとの関わりへも影響を与えている場合もあるであろう。

保育園に子どもを通わせている家庭は、祖父母と同居している3世代同居である可能性が低い。保護者が共働きであっても祖父母が家にいる家庭は、保育園に通わせないことが多いからである。住田ら(1999)は、子どもの社会性の獲得には、家族内の人間関係が複雑である方が望ましいと述べている。子どもにとって親以外の大人(祖父母など)が家庭にいることは、子どものコミュニケーション能力の発達に良い影響を与えている。保育園に通っている子どもの家庭内での人間関係の単純さが、友だちとの関わりにも影響を与えている場合もあるであろう。こういったことによる影響が、保育園に通っていた子どもの方が幼稚園に通っていた子どもよりも友だちに関して不安を持っていることにつながっていると考えられる。

■表4：幼稚園・保育園の設置基準

	幼稚園設置基準（運動場の面積）	保育園設置基準（屋外遊戯場の面積）
面積	2学級以下 330 + 30 × (学級数 - 1) 平方メートル 3学級以上 400 + 80 × (学級数 - 3) 平方メートル	屋外幼児一人につき 3.3 平方メートル以上 保育所の付近にある屋外遊戯場に代わるべき場所を含む
法律	学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第 11 号） 幼稚園設置基準（昭和 31 年 12 月 13 日文部省令第 32 号）	児童福祉法 45 条児童福祉施設最低基準

(2) 幼稚園・保育園での共通点について

表1にあるように、勉強(国語、その他の勉強)、通学、掃除、給食は幼稚園・保育園で大きな差が見られない。これらは、幼稚園・保育園と小学校を比べて、内容や方法に大きな違いがあることが多いことから、双方ともにほぼ同じように不安を感じているのであろう。

勉強に関しては、幼稚園・保育園とも、小学校入学前のある程度の期間にひらがなや数字などの勉強を行っている所がある。しかし、小学校で行われるやり方とは違う部分も多い。また、親が「小学校の勉強は難しいからしっかりやるように」と伝えている場合もあり、そういったことが理由となって、幼稚園・保育園のどちらの子どもも同じように不安を感じているのであろう。

通学に関しては、小学校の通学の方法は幼稚園・保育園の通学の方法とは全く違うことが影響をしていると思われる。幼稚園・保育園とも多くの場合、親が園やバス停まで送り迎えをしていることが多い。子どもが一人または子どもたちだけで通園することはほとんどない。今回の調査を実施した小学校の場合、朝の通学時は近くの子どもたちで集まって子どもたちだけで集団登校をしている。また下校時は、同じ学年の子どもたちが地区別でまとまって下校している。幼稚園・保育園とは違って、子どもたちだけで登下校とも行っている。幼稚園・保育園とも大きくやり方が違うことで、不安を感じている子どもに差が見られなかったのであらう。

掃除や給食に関しても、同様に幼稚園・保育園と小学校で方法が大きく違うことが同じように不安を感じていることに関係しているのであらう。

(3) 小学校、幼稚園、保育園のあり方

先に書いたように、幼稚園・保育園の環境の違いから、子どもの感じている不安の違いがある。小学校においては、それらを考慮して子どもと接していくことが望ましい。

小学校1年生の学級での様子を見てみると、同じ保育園だった子ども同士で遊んでいることがよくある。保育園に通っていた子どもは、両親が就労していることが多く、小学校に入学してからは、放課後に学童保育などに通っていることが多い。保育園と学童保育を同じ団体が運営しているケースもあり、そうした場合、保育園に通っていた子どもは、小学校入学後も保育園の時の仲間と一緒に過ごす時間が多くなる。

また、保育園に通っていた子どもは、長く同じ集団で過ごしていたことなどから、新しく友だちなどを作

ることが苦手な子どももいる。小学校に入学してからも一緒にいる時間が多いことと、友だちと関わるのが上手でないということも加わって、保育園に通っていた子どもが友だちを増やすことが難しいことも考えられる。

小学校においては、そういった状況に置かれた子どもを意識的に他の子どもと関わらせるようなことを行っていくことが望まれる。

保育園においては、園庭の環境や他の子どもとの新しい出会いの少なさの問題を理解し、対応していくことが望まれる。具体的に体を動かすことについては、室内に可動式の大型遊具を設置することや積極的に公園などへ行くことなどである。他の人との関わりに関しては、保育園内での異年齢の交流を進めたり、小学校や幼稚園などとの交流を進めていくことが望まれる。

まとめ

小学校に入学する際に子どもが感じている不安について、幼稚園・保育園に分けて検討したところ、次のことがわかった。

- ① 保育園に通っていた子どもの方が、幼稚園に通っていた子どもよりも「友だち」「運動」について強く不安を感じている。
- ② 小学校に入学する際に子どもが感じている不安に幼稚園と保育園で違いがあることは、幼稚園・保育園の置かれた環境の違いが影響を与えている。
- ③ 小学校、幼稚園、保育園の担当者や親は、子どもがいた環境によって違いがあることを考慮し、子どもと接していくことが望まれる。

《参考文献》

- (1) 細川かおり、伊藤照子ら、「来年度入学予定児の小学校入学に対する不安と期待に関する予備的研究」、鶴見大学紀要、第36号、1999、pp.75-87
- (2) 伊藤照子、細川かおりら、「来年度入学予定児の入学に対する不安と入学後の不安の変化について」、鶴見大学紀要、第38号、2001、pp.81-88
- (3) 鈴木邦明、「幼稚園・保育園から小学校へ入学する際に子どもが感じる不安について」、国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要 青少年フォーラム第7号、独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター、2007、pp.193-199
- (4) 住田正樹、高島秀樹、藤井美保、「人間の発達と社会」、福村出版、1999、pp.58-59